

「北方海域技術研究会 平成28年度 技術研究発表会」を開催しました

国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所
寒冷沿岸域チーム、水産土木チーム

2016年11月25日に寒地土木研究所講堂において、「北方海域技術研究会 平成28年度 技術研究発表会」（主催：日本技術士会北海道本部北方海域技術研究委員会、寒地土木研究所）を開催しました。本研究発表会は、港湾・水産関係技術者の技術力向上をめざして、毎年開催しており、技術者同士の交流の場としても貴重な機会となっています。日本技術士会北海道本部と寒地土木研究所は2011年11月に「連携・協力協定」を締結しており、連携行事の一環でもあります。

寒地土木研究所水産土木チームの三森研究員は「日本海北部海域における周年の水域環境と生物生産性向上に向けた検討」と題して、武蔵堆周辺海域の周年の基礎生産構造や湧昇マウンド整備の可能性について講演しました。また、寒冷沿岸域チームの大塚主任研究員は「自由落下式密度計を用いた港内浮泥調査について」と題し、釧路港における調査結果を示すとともに密度計の有効性について講演を行いました。

北海道大学 北極域研究センターの大塚夏彦教授から「北極研究のいま：世界、日本、北海道」と題して、北極の現状、今後の海水や生物環境の変化について講演されました。

また、水産研究・教育機構北海道区水産研究所の中津達也所長は「北海道区水産研究所の研究課題～環境、資源の変動について～」と題して、北海道周辺の主要魚種の資源動向を示すとともに、さけます資源の維持と合理的な利用技術に向けた研究開発などについて講演されました。

各講演とも興味深い内容であり、会場では活発な質

疑が交わされ、この発表会への関心の高さが感じられました。今回の研究発表会には北海道開発局、寒地土木研究所、民間企業等より約60名の参加がありました。主催者の一員として、ここに記して謝意を表する次第です。



写真-2 大塚夏彦氏の講演



写真-3 中津達也氏の講演



写真-1 会場の様子

